

海外安全対策情報（２０２０年１月～９月：コロンビア）

１ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）全般

ボゴタ市，メデジン市，カリ市等の都市部を含め，窃盗・強盗の被害が昼夜を問わず多発している。比較的治安が良いとされる地域でも，飲食店内の置き引き，バイク利用強盗，夜間の路上強盗，警察官を偽装して金をだまし取る等，様々な手口の犯罪が見られる。３月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出制限措置の影響で，犯罪統計数の一時的な改善が見られるが，治安が改善したと認められない。

被害に遭わないためには，人気のない道路は日中でも注意する，身の回りの物から目を離さない，怪しい人物に狙われていないか注意する等，常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一，強盗に遭った場合は生命を第一に考え，絶対に抵抗してはいけない。

（２）邦人犯罪被害事案

・ ７月１６日午後３時ころ、ボゴタ市の遊歩道を歩行中、物乞いが近づき金を要求されたが応じなかったところ、刃物を突き付けられ、現金、スマホを強奪された。

２ テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

ＥＬＮ，ＦＡＲＣ離反兵等の反政府武装組織の活動が活発な地域で，治安当局やインフラ施設に対するテロ事件が発生している。ボゴタ市では２０１７年６月，ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む３名が死亡する無差別テロ事件が発生しているほか，２０１９年１月にも市内の警察学校内でＥＬＮによる自動車爆弾テロで学生２２名が死亡するなど，今後もテロへの警戒は必要である。

・ １月１０日、カサナレ県ヨパル市の空軍基地を狙ったＥＬＮの爆弾テロの影響で市民１名負傷、軍施設や周辺の住居に損壊被害。

・ １月２２日、アラウカ県タメ市の国軍貴地に対するＥＬＮの武装攻撃により、兵士８名負傷。

・ ２月２０日、メタ県マカレナ市でＦＡＲＣ離反兵の武装攻撃により国軍兵士２名死亡。

・ ３月１０日、グアビアレ県カルタヘナ・デル・チャイラ市でＦＡＲＣ離反兵の爆弾テロにより兵士１名死亡。

・ ４月１３日、メタ県マカレナ市でＦＡＲＣ離反兵の武装攻撃により国軍兵士１名死亡。

・ ５月２８日、バジェ県カリ市で交番を狙った爆弾テロにより市民４名負傷。

- ・ 6月30日、ビチャダ県クマリボ市でFARC離反兵の武装攻撃により国軍兵士2名死亡。
- ・ 7月7日、ノルテ・デ・サントンドール県ティブ市でELNの爆弾テロにより兵士2名負傷。
- ・ 8月4日、ナリーニョ県サマニエゴ市でELNの武装攻撃により、警察官1名死亡。
- ・ 8月14日、バジェ・デル・カウカ県カリ市で交番を標的とする手榴弾を用いた爆弾テロにより市民1名死亡、警察官・市民が14名負傷。
- ・ 9月9日及び10日、ボゴタ市で警察官の暴力により市民が死亡した事案に反対する大規模な抗議活動が国内主要都市で行われ、一部の暴徒による交番、警察施設の損壊・放火被害が81件、車両の損壊・放火被害が127件発生した。ボゴタ市及び隣接するソアチャ市における警察との衝突等による死者13名、負傷者581名（警察官含む）。抗議活動に乗じて警察施設の破壊を企図したことをELNが認めたほか、FARC離反兵も暴動に関与していると政府高官が非難した。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

ELN等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、流しのタクシー（タクシーアプリ等で呼ぶ無線タクシーではない）は利用しない等の注意が必要である。

- ・ 6月18日、3か月間誘拐されていた旅行者2名（ブラジル人、スイス人）が国軍により救出された。エクアドルから陸路で入国し、車で移動中、カウカ県の山間部でFARC離反兵に誘拐されたもの。犯行グループは被害者の家族に身代金を要求していた。